潜在性Cushing症候群に関する研究

研究分担者
方波見　卓行　聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院　副病院長
柳瀬敏彦　　福岡大学内分泌糖尿病内科教授

研究要旨

潜在性（あるいは不顕性）Cushing症候群(SCS)の新診断基準を作成し、日本内分泌学会誌（和文および英文）に公表した。

A. 研究目的

本研究の目的は、潜在性（あるいは不顕性）Cushing症候群(SCS)の新しい診断基準を作成することである

B. 研究方法

本研究班、日本内分泌学会、日本ステロイドホルモン学会からなるワークンググループをたちあげ、原案を作成した。その後、本研究班の班会議、および厚生労働省「間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する調査研究」の班会議で討論した。さらにパブリックコメントを反映させた。

（倫理面への配慮）

本研究はヘルシンキ宣言、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針、難病の患者数と臨床疫学像把握のための全国疫学調査マニュアル第二版に準拠した。

C. 研究結果

潜在性（あるいは不顕性）Cushing 症候群(SCS)の新しい診断基準を作成した（資料 10 参照）。

D. 考察

今後、本診断基準の礎となった多施設共同研究の解析結果を論文作成予定である。また、SCS 診断後、手術後の予後は明らかでなく、当研究班を含めた調査体制の整備を行っている。

E. 結論

潜在性（あるいは不顕性）Cushing 症候群(SCS)の新しい診断基準を作成した。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 柳瀬敏彦, 沖隆, 方波見卓行, 大月道夫, 蔭山和則, 田中知明, 河手久弥, 田邉真紀人, 土井賢, 明比祐子, 一城貴政。日本内分泌学会臨床重要課題潜在性クッシング症候群(下垂体性と副腎)の診断基準の作成「副腎性サブクリニカルクッシング症候群新診断基準」の作成と解説。日本内分泌学会雑誌:93 (Supp),1-18, 2017
2. Yanase T, Oki Y, Katabami T, Otsuki M, Kageyama K, Tanaka T, Kawate H, Tanabe M, Doi M, Akehi Y, Ichijo T. New diagnostic criteria of adrenal subclinical Cushing's syndrome: opinion from the Japan Endocrine Society. Endocr J. Epub 2018 Mar 23.

2. 学会発表

1. 方波見卓行, 副腎性サブクリニカルクッシング症候群の新たな診断基準.第27回臨床内分泌代謝Update,2017

H. 知的財産権の出願･登録状況

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし